



一丁目の豆腐屋

店を閉めた

とな

（由紀子）



空と無の

写経に追われ

苔の秋（晃二）





風吹けば翅震えけり秋の蝶 (昌康)



青蛙

にらめいしつはる

ウツフツフ(隆)



寸評：

1) 二丁目の豆腐屋店を閉じたとな 新田 由紀子

何かを探して求めているキツネ達。下丸子にある京浜稻荷の風景である。好物の油揚げを売っている二丁目の豆腐屋が潰れたらしいとの噂話。二丁目の豆腐屋とか最後のとなとかユーモラスな表現がなんともおかしみを誘う。このような作品を編み出した作者の新しい一面を見た感がある。

2) 空と無の写経に追われ苔の秋 安藤 晃二

京都苔寺での一風景。写経を終えた後に見るきれいな苔の上の落ち葉が印象的である。下5の苔の秋の一言で句が引き締まった。

3) 風吹けば翅震えけり秋の蝶

松田 昌康

豹柄が特徴のツマグロヒョウモンという蝶の美しい写真に素敵な句がついた。写生の効いた素直な句は写真が無くてもそれ自体立派な俳句である。これは作者の代表作と言ってよいレベルの作品である。

4) 青蛙にらめっこしよかウッフッフ

池田 隆

真面目な顔の青ガエルの写真にほほえましい句。この種の写真での作品としての生死は句にあると言って良い。下5のウッフッフでいっばしの作品になった。

5) お勤めを終えて返上鬼の顔

三 春

寺院の建物の横に置いてある鬼瓦の写真。ユニークな写真に苦心して面白い句をつけた努力は買うが、句意がやや不明で前四作のように素直に納得できる句には仕上がっていない。そこが作者の個性だとも言えるが、ただ、何となく見過ごしてしまうような事物に気を配りカメラを向ける気構えは評価したい。



## 付け句



今月のお題写真は、大月さんの提供。薬師寺の修二会の映像である。

寸評：

1) 不動明王焼き芋抱えて現れる 新田 由紀子

燃え上がる火の手の関連で焼き芋の句は他にもあったが、こんな不動明王が現れたら修行僧もビックリしただろう。センスある連想だ。

2) もういいか密かに持ってたラブレター 矢澤 正二

処置に困った若き日のラブレターを燃やすタイミングを狙っていた。過去を捨て未来に生きたいが、今の年齢を考えると。

3) 火と煙薪ストーブの香りかな 大越 浩平

「煙が目に染みる」という曲があるが、昔馴染んだ薪ストーブを思い出しのスタルジックな気分になるのもよしとしよう。